

地区懇談会での主な意見等の概要

会場名 帯広の森 →帯広の森コミセン 啓北 →啓北コミセン
 川西 →川西農業者研修センター 保健福祉センター →保健福祉センター
 グリーンプラザ →グリーンプラザ

項目	会場	参加者の意見等	市長の発言等
災害時の避難所対策について	帯広の森	<p>昨年、台風の直後に参加した避難訓練は、地震を想定しているとのことだったが、実際に地震が起きた時にかなりの距離を歩く地域があり、果たして誰もがスムーズにそこまで避難できるのか疑問に思った。避難所に至るまでの、一時的なサブ避難所を指定してはどうだろうか。また、訓練に参加して、さまざまなケースを体験しても、実際の災害時に、その人がすべてに対応出来るわけではない。地域で、リーダーとなる人に対しての訓練をしておく必要があるのではないかと。</p> <p>次に、避難所に着くと、市に対して避難人数などを報告するが、皆で共有できる被害確認リストを作成してはどうか？それを避難所に貼り出して、その地域の被害状況が一目でわかるという。消防や警察が情報収集しても限りがあると思うので、日頃そこに住んでいる地域の人が避難所に向かうまでの道すがら、電柱が倒れたなどの被害をチェックできるリストを町内会に渡しておくというのではないかと。</p> <p>最後に、災害時に備えて、市の組織に専任の司令塔となる部署をつくっておくというのではないかと。他の部署と連携する時、係単位の部署では他の部署に対して指示命令がしにくいのではないかと。</p>	<p>市には、現在、指定避難所が52カ所あるが、それ以外に福祉センターや公園など、全部で120～170の場所を代替避難所や一時避難所に指定している。ご提案いただいたように、高齢化で避難所まで歩けない、冬場は同じ道でも時間や感じ方が違うといったことから、指定されている避難所を利用できない場合も想定される。そうした時に別の避難所を利用する訓練も行っているが、避難所のあり方について今後も検討していきたい。</p> <p>被害確認リストについては、行政だけで確認できない部分を町内会や現場の皆さんと、どのように情報共有していけばいいのか考える時に参考にしたい。</p> <p>選任の司令塔については、すぐに対応することは難しいが、実際に災害が起きた時に機能しないような組織があっても仕方がない。絵に描いた餅にならないようしっかり考えていきたいと思う。</p>
職員の引き継ぎについて	啓北	<p>防災の担当職員は、避難所対応などに関して色々学んでいると思うが、担当していた職員が人事異動で代わり、今まで学んだ事が無駄になってしまっているのではないかと。忘れたところに災害はやってくると思うので、防災に関してはしっかり引き継ぎを行っていただきたい。</p>	<p>確かに引継ぎは非常に重要であり、それぞれの時点で担当してきた職員が学んだことを、途絶えさせることが無いよう注意していきたい。</p>
災害時のための勉強会を開いてほしい	啓北	<p>去年、避難所ごとの災害時のシミュレーションに参加したが、避難所になっている小学校にはひとつの連合町内会だけではなく、別のエリアの連合町内会も集まる。しかし、顔を知らない者同士と一緒に避難所を運営しようとしてもなかなかスムーズにいかないのではないかと。同じ避難所を利用する町内会合同の勉強会をしていただけるとありがたい。</p>	<p>東北の震災時、同じ地域の人たちだけが集まった避難所と、別の町内会が混在した避難所とでは、運営状況が全然違ったという例をいくつも伺った。</p> <p>町内会が違うだけでコミュニケーションが難しいというのは事実だと思う。一方で、出前講座などで別々の町内会が一緒に勉強会をしたり、顔を合わせている避難所もあるという事例も伺っている。防災にはご近所の力が大切だが、ご近所のくくりをもう少し広げて、同じ避難所を利用する町内会同士が、何らかの形で顔見知りになれるような工夫を行っていくことも重要だと感じる。</p>
停電時の備えについて	川西	<p>携帯やテレビも電気が無いとみることができず、普段、私たちは電気に頼った生活をしている。早々に復旧すれば良いが、避難所の防災倉庫に用意されている発電機だけで帯広市民の緊急の電力が賅えるのか不安である。最近ではIHでガスを使わない家庭もあるし、ガスや灯油、水は備蓄できるとしても電気は備蓄できない。市はどのように考えているのか。</p>	<p>昨年の熊本地震でも、ライフラインが停止した。停電から復旧するまで5日程度かかったと言われている。その間、発電機で電力を賅うという事になるが、各避難所ごとに用意することは難しいため、現在は防災協定を締結している企業などの発電機や機材をお借りして電力を確保したいと考えている。</p> <p>ご指摘いただいたとおり、現代社会そのものが、電気に過剰に寄りかかっている。災害により電気が遮断されることで、我々の生活や産業も影響を受けることから、国や道、供給者などと協議しながら対応策や体制づくりを検討していく必要がある。</p>
見守りのシステム化	保健福祉センター	<p>親や先生には言いにくいことでも、友達の親などには気軽に相談できる子もいる。時間がある保護者が見守りシステムのようなものを構築することはできないかと考えている。日中、家にいるお母さんたちは、隙間時間でできる仕事を探していても、ボランティアをすることまでは難しい。そこで見守りシステムを仕事として確立できないだろうか。もし実現すれば、地域の人が子どもたちのケアをするので、お母さんたちのネットワークや地域のつながりも生まれると思う。もちろんお母さんだけでなく、定年退職した地域のおじさんとかおばさんたちにも協力してもらえるといい。</p>	<p>町内会活動の参加者減少や、地域のつながりの希薄化などにも関係するご意見だと思う。子どもたちが色々な場所で色々な人に相談できる体制づくりが求められているが、従来のシステムだけで行うことは難しくなっていると思う。新しい仕組みをつくることは簡単ではないが、地域のつながりなどを考えていくうえで参考にしたい。</p>
働き方改革の推進	グリーンプラザ	<p>私は、30代の働き世代で2児の父でもある。今後女性も働いていかないと労働人口が減少するので、男性である私も子育てに参画したいと思っているが、なかなかできていない。全国的にワークライフバランスが注目されているが、民間企業などでは進んでいるのか。子育て世代のためにも働き方改革を進めてほしいと思う。</p>	<p>働き方改革には、残業時間の削減だけでなく、色々な取り組みが考えられる。以前に比べ、行政による子育て支援だけでなく、民間の子育てをサポートする制度も拡充されていると感じている。そうした制度を、上手く繋いで利用しやすいものにしていくことも必要かもしれない。ワークシフトという言葉も広まってきているように、日本全体で働き方改革について考え始めたと感じており、今後、ますます進んでいくことを期待している。</p>
市民が発言しやすい環境を	グリーンプラザ	<p>本日参加して、市がどのような取り組みで子育てをサポートしているのかが理解できた。しかし、私たちのように子育てを実際に行っている人たちが、困った時に自分から発信することは難しい。こうした機会に発言できる人もいると思うが、言えない人もいるのではないかと。市民が言いにくいことを、発言しやすい機会がもっと増えたらいいと思う。</p>	<p>市のさまざまな制度を、利用する皆さんにどのように伝えればいいのか、何が足りないのかを知るためには、皆さんと直接お話しすることが一番良い。皆さんの声を受け止めていくために、このような対話の機会をもっと増やしていきたいと改めて感じた。</p>